日本IOMクラス協会　第１２回競技会　レポート

2021年１１月２０（土），２１日（日）の両日　静岡県磐田市の竜洋B&G海洋センターにて、日本IOMクラス協会の第１２回競技会を開催しました。

ここ竜洋 B&G 海洋センターには、当日本 IOM クラス協会の競技会会場としても、東海地区のＲＣヨット愛好家が参加する竜洋ラジコンヨットの月例レース水面としての使用、およびレース備品の保管もさせていただいており、大変お世話になっています。

当　日本IOMクラス協会主催のランキングレースとしては、2021年に４回開催する予定でしたが、新型コロナ感染拡大に伴う緊急事態宣言の発令を受け、移動制限の観点から３回は中止決定しました。このため、今競技会が今年最初で最後の競技会です。今後、新型コロナ感染急拡大のないことを祈るばかりです。

競技会で、常に優勝か上位に入るセールNo.５９平尾選手は、今回は新たに建造されたOKADA　CRAFT製のSATAN-Ⅱでの参加。

前回（昨年）第８回競技会の優勝艇セールNo.２７山脇選手はハル色が変わった（なぜ？）Kantun-２での参加。

いつも上位争いに加わってくるセールNo.６４池松選手もKantun-２。

さらに当協会主催大会への参加のためにKantun-２を購入したという初参加のセールNo.４９八木選手が加わり競技会へのKantun-２の参加は３艇となった。

実艇４７０の経験を活かして、アグレッシブな走りで上位に入る地濱選手は、今回は競技会運営に徹する室川委員長のセールNo.１３Britpopを駆っての出場。

こんな中、セールNo.５５藤井選手は、３Ｄプリンタでハルを製造したというMantaExtremeでの参加。一体製造ではなく、数分割で作成し接着して形成。市販３Ｄセール使用者はかなり多くなっているが、ついに３Ｄプリンタ自製造ハルの時代がやってきたか。

いつもレース委員長とプロテスト委員長を務めていただいている、中島氏と落合氏の個人的協力には大変感謝します。

関東からの参加選手が多く、参加艇数１１艇の競技会となりました。

１日目は、室川委員長の開会宣言で、北東寄りの少し弱い風のコンディションで競技開始。

第１レースでは、セールNo.０１自作艇の川本選手が終始リードするも、冷静にトップ艇を追い続けたセールNo.６４池松選手が、ゴール寸前で追いつき川本選手のちょっとしたミスもあり逆転でトップフィニッシュ。　２位川本選手、前回競技会優勝のセールNo.２７山脇選手が３位。セールNo.１０　SEDICIの松村選手が４位で続く。

上位常連のセール番号５９は、７位と出遅れる。地濱選手も慣れない艇のせいか、８位での競技会スタートとなった。

レースコンディションとしては、残念ながら風は弱く、北東から東へ回り込み、マークブイを打ち直すが、更に風が落ちたため、１０時に競技を開始したばかりではあるが、１１時を少し過ぎたところで、早々に風待ちのため昼食タイムとなった。

午後から風は西に回りコースマークの打ち変えに追われる。

第２レースはセールNo.２７山脇選手がトップフィニッシュ。セールNo.３１Alternative（元池松艇）を譲り受けた吉田選手が良い走りをみせ２位に入る。３位にセールNo.６４池松選手が入り、セールNo.６４と２７が同点で早くも首位争いの様相を見せる。

初日は風が弱く、レースもこの風のコンディションのように静かに進んでいく。

第３レースではセール No.２７山脇選手が連続トップフィニッシュし、前回優勝の実力を見せたのに対し、セール No.６４池松選手が１０点を加点してしまい、セール No.２７と少し差がついた。しかし、レース数が４レースを超えればカットレースが出てくるので、まだ差は小さいとも言える。

ここまでの３レースで２位に入ったのは、セール No.０１川本選手，セール No.３１吉田選手，セール No.１０松村選手と入れ替わったが、この２位を占めた各選手は前後するレースで上位をキープできず、総合成績では上位に位置取りすることができない。

第４レースでトップを取ったのは、それまでの３レースで思うような結果を出せなかった Kantun-２で初参加のセール No.４９八木選手。セール No.２７山脇選手が２位，セール No.６４池松選手が３位。

西（コントロールエリアから見て右）が上のレースで、下マークのゲートに向かう下りレグでセール No.２７とそれを総合成績で追いかけるセール No.６４が首位争いで並走になる。セール No.６４は、ヨットレースでの唯一の攻撃手段と言われる下艇からのラフィングを利用し、下からセール No.２７に寄せて行き、コースから押し出して行く。競り合う相手をマークへのアプローチでコースマークから遠ざけることにより、マークに進路を向けたときに、マーク４艇身での艇がオーバーラップすること防ぎ、マーク回航時に内側に入らせない作戦だ。この場面では、見事狙い通りに、下マークを先行して回航して見せた。これもヨットレースの醍醐味だ。

第５レースまでに２位を２回と上位を走ることの多かったセール No.１０松村選手だが、第６，第７レースでゴミトラブルもあって順位を落とし、総合順位を落とす。

初日、セール No.２７山脇選手は安定した走りで第４レース以降２，１，１，１位と見事な走りを見せ、早くも得点で２位をカットレースを勘定しても１０ポイント離して首位。セール No.６４池松選手が２位。３位以下はやや混戦気味だが、セール No.４９が初期の少し多い加点から、第４レース以降堅実な走りで加点を抑えて３位争いに加わってきた。

セール No.１３を駆る地濱選手はトップフィニッシュはなかったものの、大量加点はなく、３位争いに加わっている。

レース終了時刻の１６時に向けて風向変化に対応してコースマークを打ち変えしていたが、最終的にはマーク設定後に風が落ちてしまいレーススタートできない。弱い風に終始したためレース数が伸びず７レースで初日は終了となった。

上位常連のセール番号５９平尾選手は、今回から新しい艇になったが、調整不十分なのかなかなか上位に来ない。

２日目も北東寄りの風で競技開始。

この日最初のレースである第８レースでは、初日首位のセール No.２７山脇選手の艇が浮遊ゴミを引っ掛けてなんと最下位フィニッシュという波乱から始まった。この第８レースでトップフィニッシュしたのは自作艇のセール No.０１川本選手。セール No.１３Britpop を駆る地濱選手が２位に入り、総合成績の点差を詰める。第３位はセール No.６３V10 の福家選手。

レース中、よく上位を走る姿が見られるセール No.６３であるが、残念ながら走りが安定せず、フィニッシュまでに順位を落としたり、下位に沈んだりで総合上位に上がれない。

第１０レース、１０艇身ほどの差をつけて第１下マークをトップ回航したセール No.６４池松選手が、上りレグ中盤に差し掛かると「魔の三角地帯」にでも捕まったように急に船速が止まる。これを追っていたセール No.２７山脇選手も同じように船速が落ち、タックを打ってもがいてもなかなか抜け出せない。この間に異なるコースを選択した他艇が先行していく。セール No.６４池松選手は何とか４位まで挽回してフィニッシュしたが、セール No.２７山脇選手は１０位と沈んで、第８レースと合わせて大きな加点となる。しかし、初日の貯金が効いて総合首位の座はそう簡単には揺るがない。セール No.２７は２日目始めの４レースは１１位、１位、１０位，

１位と出入りの激しいレースとなったが、それに続くレースでは１位，２位，１位と首位を固めていく。
　２日目９時開始のレースは１０時頃には３レース目と順調に進んだが、やや風が東に振れはじめ、マークブイの打ち直しで時間が経過する。北東寄りの風から南東に変化することにより、湾曲した岸に合わせて、左水面から大きく右水面に移動することになる。
　セール No.６４池松選手は２日目前半トップフィニッシュこそなく、首位との差を大きく詰めることはできないが、４位１回以外２位，３位を連ね３位以下との点差は開きつつある。それに続くのはセール No.４９八木選手とセール No.１３を駆る地濱選手が３位争いだ。
　全体的には強い風のコンディションの無かった今大会だが、昼食後の２つのレースはヒール角度が４５度程度になる、やや強目の風が吹いた。この風力の変化によって、走りがガラッと変化した艇も見られた。艇のデザインが強風に合っているのか、スキッパーのセールトリムが風力による変化の大きいトリムなのか分からないが、総合上位の艇は風力変化にも割合安定した走りを見せていた。

　後半の第１５，１６レースはセール No.４９八木選手が見事に連続トップフィニッシュを見せる。
セール No.６４池松選手は終盤５レースを２，３，２，１，２位と上位を続け、首位セール No.２７山脇選手を追いかけるが、セール No.２７は中位フィニッシュが３レースありやや加点したものの、トップフィニッシュも２回記録し、総合首位は揺るがなかった。

　２日目も、風の振れによりマークブイ打ち変えに時間を取られたこともあり、２日目１１レースで計１８レースで競技会終了となった。

　１位は、２位に１０点以上の差をつけたセール No.２７　山脇選手が大会２連覇。２位は終盤に首位との点差を詰めたが、及ばなかったセール No.６４　池松選手。３位はセール No.４９　八木選手とセール No.１３を駆る地濱選手が同点となったが、後半にトップフィニッシュを２レース連続した八木選手が１位回数で上回り、初出場で見事３位。４位地濱選手という結果となった。山脇選手はセールトリムで他艇に優る艇速を見せ、安定した走りのテクニックと、少し出遅れたときに見せる戦略で、１日目第３レース以降首位を譲らない見事な勝利でした。
　結果的には、総合１～３位は全て Kantun-2 という結果となった。Kantun-2 強し。

　成績発表に続き、入賞者に表彰状とカップが贈呈され、閉幕となった。

次回の競技会には、山脇選手を倒す選手が現れるでしょうか。

レポート：岩田良文　JPN298